

2011年9月14日

北米工場で受託生産車 新型カマリのラインオフ式を実施

富士重工業の北米生産拠点である Subaru of Indiana Automotive, Inc. (以下、SIA) は、9月12日(現地時間)、トヨタ自動車(株)から生産を受託する新型カマリのラインオフ式を実施しました。

式では、富士重工業の鴨川常務執行役員やSIAの野村社長、トヨタ関係者など多くの出席者が、ラインオフする第一号車を、盛大な拍手をもって迎えました。

SIAのトム・イースターデー執行副社長は「SIAで新型カマリを生産できることは素晴らしいことだ。我々は新型カマリの開発に携わるトヨタ関係者と一緒に仕事を進めてきたが、このモデルが市場で多くのお客様に受け入れられるであろうと確信している。」と述べました。

SIAでの受託生産は、2007年4月から開始し、トヨタ車としての高い品質レベルを維持しながら、これまで累計35万台を超える台数(2011年8月末時点)を生産してきました。

これまでSIAにおけるカマリの受託生産は、工場全体の稼働率向上や新規雇用の創出など、SIAの経営に大きく寄与しており、当該事業はトヨタ自動車と富士重工業のアライアンスの成果のひとつとして、今後も継続していきます。

<SIAでのトヨタ車生産概要>

- ・生産車種 : 北米向けカマリ
- ・生産能力 : 約10万台/年 ※SIA全体では約26万台/年
- ・生産開始 : 2007年4月



新型カマリ ラインオフ式